



2016年4月11日

各位

国立大学法人 京都大学
大日本住友製薬株式会社

**京都大学と大日本住友製薬の協働による革新的オンコロジー創薬・医学研究拠点
(第2期「DSKプロジェクト」)実施のお知らせ**

国立大学法人 京都大学(本部:京都市、総長:山極 壽一、以下「京都大学」)と大日本住友製薬株式会社(本社:大阪市、社長:多田 正世、以下「大日本住友製薬」)は、独創的な抗がん剤、診断法および治療法の創出を目指した協働研究「DSKプロジェクト」の第2期を実施しますので、お知らせします。

第2期「DSKプロジェクト」では、分子・細胞生物学的観点および臨床的観点から免疫とストローマ制御によるがん創薬研究を実施します。

京都大学は、画期的な薬剤・医療技術の創出と創薬研究者の育成を目的として、日本初のオープンイノベーション拠点である「メディカルイノベーションセンター」を中心に、包括的組織的産学連携プロジェクトを積極的に推進しています。特にがんの領域では、「京大病院がんセンター」において集約的高度がん医療を提供するとともに、医学研究科を中心にがんの新しい診断法や画期的治療法の開発を目指した世界最先端の基礎研究を展開しています。

大日本住友製薬は、精神神経領域とがん領域を研究重点領域とし、革新的な医薬品の創製を目指して、自社研究、技術導入、ベンチャーやアカデミアとの共同研究等の手法を取り入れて研究開発活動に取り組んでいます。がん領域では、当社のがん創薬研究所と米国子会社のボストン・バイオメディカル・インクからなるグローバルで一貫した研究開発体制のもと、画期的な製品の創出を目指しています。

この度、京都大学と大日本住友製薬は、「メディカルイノベーションセンター」内に共同がん研究開発拠点(第2期「DSKプロジェクト」)を設置することに合意しました。第2期「DSKプロジェクト」は、上本 伸二医学研究科長・医学部長を統括責任者、がん免疫学の湊 長博医学研究科特命教授を研究統括とし、医学研究科の主要ながん研究グループと大日本住友製薬の研究所の研究グループが協働して、「がんと宿主応答」という新しい観点からこれまでにない独創的で画期的な抗がん剤、診断・治療法の開発および創出を目指します。

[別紙に第2期「DSKプロジェクト」の概要を記載しています]

* 第1期「DSKプロジェクト」の実施については、2011年3月15日に発表しています。

第2期「DSKプロジェクト」の概要

【目的】

免疫や組織ストローマ細胞*によるがん細胞制御のメカニズムを解明し、これを基礎に独創的で画期的な抗がん剤や診断・治療法の開発および創出を目指します。

* ストローマ(間質)細胞とは、がん組織に存在するがん以外の細胞を指します。具体的には、線維芽細胞、免疫細胞、周皮細胞、内皮細胞および炎症性細胞などが挙げられます。

【期間】

2016年4月から5年間

【研究体制の概要】

DSK プロジェクトは、京都大学と大日本住友製薬からの同数の委員で構成される協働運営委員会、研究推進委員会および知的財産委員会により運営されます。

DSK プロジェクトの統括責任者は上本 伸二医学研究科長・医学部長、研究活動の統括は、湊長博 京都大学医学研究科特命教授とし、京都大学中核研究グループ(免疫、消化器、ゲノム情報)および大日本住友製薬サテライト研究グループの協働により、病院西構内のメディカルイノベーションセンター棟で実施されます。

以 上

○ 本件に関するお問い合わせ先

京都大学大学院医学研究科
医学領域産学連携推進機構

TEL 075-751-0909 FAX 075-751-0950

大日本住友製薬株式会社 広報・IR担当

(大阪) TEL 06-6203-1407/(東京) TEL 03-5159-3300